

新たな知の拠点づくりへの提言の概要

提案の構成

新たな「知の拠点」に期待する

第1 千葉県の新たな知の拠点づくりを目指して

第2 これまでの経緯

1. 国の方向性
2. 千葉県の現状と課題
3. 千葉県立図書館の現状と課題
4. 千葉県立図書館基本構想の策定
5. 千葉県文書館の現状と課題

第3 新たな知の拠点の基本的な考え方

- 1. 誰もが千葉県の文化情報資源に容易にアクセスできる情報基盤システムの整備
- 2. 来る人の期待が高まるシンボルエリアの形成
- 3. 知の創造と循環を促すための様々な活動の展開
- 4. 知の拠点を演出する専門家集団の編成

第4 新たな知の拠点におけるサービスについて

第5 新たな知の拠点づくりに向けた基盤整備

1. 組織体制の考え方
2. 取り扱うコンテンツの考え方
3. システム構築の考え方
4. 施設・設備に関する考え方

主な提案内容

誰もが千葉県の文化情報資源に容易にアクセスできる情報基盤システムの整備

- 県立図書館、県文書館及び県立博物館等の資料、さらには地域で生み出され継承されるべき資料といった、**千葉県の文化情報資源が網羅的に関連づけられ、誰もが千葉県の文化情報資源に用意にアクセスできるような情報基盤システムを整備する。**
- 情報基盤システムの維持管理及び情報基盤システム上で文化情報資源が活用されるための仕組みづくりについては、**県立図書館が主導して進める。**

来る人の期待が高まるシンボルエリアの形成

- 情報基盤システムによる発信と文化情報資源を取り扱う機関（県立図書館、県文書館及び県立博物館等）の**複合・近接**により、**来る人の期待が高まるシンボルエリアを形成する。**
- **部局や所属の枠を超えて文化情報資源を研究し、専門家同士がテーマによってチームで活動する「千葉の研究の場」とする。**

知の創造と循環を促すための様々な活動の展開

- 文化情報資源を、**県民が活用しやすく、県民の知的好奇心に応えられるように編集し提供することで、文化情報資源の活用と新たな知の創造を促進する。**
- これまで図書館、文書館及び博物館等が行ってきた、レファレンスサービス、読書案内、資料展示、講演会等のサービス・イベントをさらに発展させ、文化情報資源のより幅広い活用の仕方を提案する。特に**デジタルの世界ではさまざまなクロスオーバーが生まれ、促されることを認識し、文化情報資源としてますますデジタルの比重が高まっていく中で、データや情報技術の領域における活動を重視する。**
- **県民のICT活用を促進し、情報リテラシーの向上に寄与する。**

知の拠点を演出する専門家集団の編成

- 文化情報資源に対する深い知識・理解を基盤に、資源同士を組み合わせることで**新しい知見を見出したり、過去の資源から新たな価値を生み出したり、それを多くの人と分かち合うことができる専門家**を育て、**組織としてまとめあげていく。**
- **新たな知の拠点の基本理念の下で、チームとして能力を発揮できるよう、司書・アーキビスト・学芸員等としての専門性をそれぞれ伸ばすとともに、外部の専門家とも協力・協働して事業を行う。**
- 知識基盤社会における**情報化、情報技術の発展に対応可能な人材を配置する。**
- 各職員・専門家の持ち味、強みを活かせるようチームを構成するとともに、**新施設全体の成果が最大となるような組織構成を行う。**
- 各職員がそれぞれの責任で担当業務を超えた**新しいプロジェクトに挑戦できる仕組み等**を検討する。

組織体制の考え方

- 長期的な視野に基づく組織づくりとともに、計画的な人材の確保、育成を行う。
- **各機関の壁を超えたプロジェクトチームの編成や文化情報資源の活用をコーディネートできるアンブレラ型の組織を構築する。**
- **外部の人材や他の分野の専門家、県民とも連携してチームを作り、新しい事業を推進することができる人材を育成する。**

取り扱うコンテンツの考え方

- これまで県立図書館や県文書館が取り扱ってきたさまざまな資料に加えて、**社会のデジタル化の進展によって、新たに県民の活用できる資源として捉えることが可能になった資料や情報等を積極的に取り扱っていく。**
- 多様な文化情報資源について、千葉県として重点的に取り組んでいく領域を検討する。
- 時宜に即した資料収集とそれを活用した企画・サービスを展開する。
- 県内のその他の文化情報資源を扱う機関等との間、あるいは市町村立図書館との間においても、資料の取扱いの役割分担について整理することが望ましい。

システム構築の考え方

- 県内の文化情報資源に関する情報が**1つのインターフェースから検索**できる等の機能を備え、市町村や関係機関等の利用・参加促進のために技術的・制度的な制約の少ない使いやすいシステムとする。
- 文化情報資源の活用促進のための機能を備える。

施設・設備に関する考え方

- 新しい施設は、県立図書館と県文書館を複合化した上で、文化情報資源を扱う機関との幅広い連携が実現可能な場所に整備し、災害対応等にも配慮した上で、千葉県の新たな知の拠点到ふさわしい、文化情報資源が集まる象徴的なエリアを形成することが望ましい。